

# 令和8年度 毛呂山町立毛呂山中学校の教育

毛呂山町立毛呂山中学校長 前田伸吾

## 1 学校教育目標

**「夢をもち世界にはばたく毛呂山の子ども」**  
自ら学び 共感し 行動できる生徒

### <目指す学校像>

一人一人が輝く学校 地域と共に歩む学校

- (1) 一人一人の生徒が笑顔で輝く学校（志をもって学びがいのある学校）  
学習・・・わかる喜び、できた喜びを味わえる  
生活・・・互いに思いやり、所属意識・自己肯定感がもてる
- (2) 保護者や地域に信頼される学校（誰からも愛される学校）  
環境・・・緑と花に囲まれ清掃の行き届いた美しい学校・安全な学校  
連携・・・PTA・地域人材の活用・安心な学校
- (3) 生徒と共に喜び、汗を流す教師のいる学校（やりがいのある学校）

### <目指す生徒像>

- (1) よく考え進んで学習する生徒
- (2) 感性豊かで思いやりと共感力のある生徒
- (3) 心と体を鍛え最後まで努力する生徒

### <求める教師像>

誠実、謙虚で生徒に温かい目で接する教員集団

- (1) 人権感覚を高め、生徒一人一人の個性を大切にする教師
- (2) 生徒の可能性を信じ、生徒の未来を拓く教師
- (3) 改善を常とし、不断の努力を惜しまない教師
- (4) ライフ・ワーク・バランスを図り、自己の成長を追い求める教師

## 2 学校経営方針

明日の毛呂山をつくる人づくりのために  
(全教職員がよい学校を創っていこうという共通意識)

- 誠実 (心を込めて職務を全うする)  
丁寧 (他者への対応を丁寧に行う 接遇=言葉遣い、電話、服装等を大切に)  
敬愛 (職員・保護者・生徒・地域 互いの人格を尊重し敬い合う関係を作る)

### 3 毛呂山町立毛呂山中学校の行動指針

#### 「挑む」「拓く」「和」

本学で学び、生活する生徒と共に、教職員の行動指針として「挑む」「拓く」「和」を掲げる。

・新しいことに挑む ・自らの可能性を拓く ・和をもって共に歩む

### 4 本年度の重点目標

#### (1) 小中一貫教育の充実

・教職員の研修、交流 ・ 児童生徒の交流 ・ 9年間を見通した教育課程の編成

#### (2) コミュニティ・スクールの推進

・地域人材の活用（授業・学校行事・部活動・防犯等） ・ 学校の地域貢献活動

#### (3) 特別活動（学級活動）の推進

①望ましい集団活動を通して、生徒相互のよりよい人間関係や生徒と教師の信頼関係を育て、自己有用感・自己肯定感を高める。

②生徒が主体的に取り組む場を意図的かつ積極的に設定し、活動を推進するリーダーを育成する。

・自主性、自律心、自治能力を伸ばし、発揮できるよう全教員が意図的に指導する。

・生徒会活動、学校行事、ボランティア活動を生徒の自発的・自治的な活動へと促す。

#### (4) 人権教育の推進

①自立した社会人になるために、人権尊重の理念に基づき、互いに認め合い、協力し合う心の育成を図り、偏見や差別を許さない学校風土を創出する。

・教師が生徒の人権を尊重した関係を築くために、統一した呼び方を励行する。

・特別な支援を必要とする生徒に対し、その特性を理解すると共に、できること・得意なことを伸ばす指導を心がけるなど、成功体験を増やし自己肯定感を高める。

#### (5) 不登校問題への対応

##### ①不登校対応の充実

・不登校が生じない魅力ある学校づくりを行う。

・教職員による「居場所づくり」と生徒自身による「きずなづくり」を意識した教育活動を展開するため、学習場面及び生活場面における具体的な仕掛けを学校、学年、教科等の単位で行う。

\*安心・安全な学校づくり・・・教員と気軽に話せる関係、生徒同士の人間関係づくりができる場の設定、心配な生徒の情報共有など

\*互いに認め合える活動・・・授業、委員会・係活動、行事（学校は楽しい居場所）

\*自主性の尊重・・・主体的に活動する機会を設定（みんなで何かをするのは楽しい）

・学校生活アンケートを実施し、生徒の意見を聞き取るとともに、結果を分析することにより魅力ある学校づくりに向けた改善点を見出す。

・生徒の状況を把握し、情報共有するとともに、必要に応じてスクールカウンセラーやスク

ールソーシャルワーカー、教育相談室、学習適応教室等の関係諸機関につなげることで、大人とつながりがない生徒を「0（ゼロ）」にする。

・個に応じた指導の充実を図るため、タブレット型端末を有効に活用することで学習支援を行い、学習を保障する。

・全学年で実施する QU テストを活用し、不登校になり得る状況の把握及び早期対応を図る。

## (6) いじめ問題への対応

### ①いじめ防止基本方針

・毛呂山町いじめ防止基本方針及び本校の学校いじめ防止基本方針に基づいた取組を推進する。

・いじめ撲滅の具現化に向けた具体的な活動を生徒に考えさせ、実施する。

・生徒会の作成した「いじめ撲滅宣言」が生徒の行動の基準になるよう指導すると共に、いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめ発生時には迅速に「学校いじめ対策委員会」を開催し、機動的かつ組織的に対応する。いじめ事案については、スクールカウンセラーと連携して対応することを基本とし、認知したいじめについては、関係する保護者への連絡を欠かさず、指導後の状況も共有する。

### ②情報モラル教育の推進

・SNS 学校ルールについて、生徒会を中心として見直しを行い、SNS 家庭ルールの啓発を図る。

## (7) 特別支援教育の充実

### ①個に応じた指導・支援の充実

・特別支援教室に係る理解授業を年度当初に行い、障害の特性や個性についての正しい理解ができるよう、特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的に障害者理解に取り組む。

・巡回指導教員、専門員と担任、特別支援教育コーディネーターが連携し、個別指導計画を作成して指導にあたる。

### ②インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進

・授業のユニバーサルデザイン化を推進する。

＜授業のユニバーサルデザインの7原則＞

\*すべての生徒が学びに参加できる授業

\*多様な学び方に対して柔軟に対応できる授業

\*視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定が準備されている授業

\*欲しい情報が分かりやすく提供される授業

\*間違いや失敗が許容され、試行錯誤しながら学べる授業

\*現実的に発揮することが可能な力で達成感が得られる授業

\*必要な学習活動に十分に取り組める課題設定がなされている授業

・学校だよりや学年だより等においては、平易な表現を使用し、必要に応じてルビを振るなど、日本語指導が必要な生徒や保護者への支援を意図的に行う。

## 5 目標達成に向けた具体的な活動

(1) 生徒に学ぶ喜びを与え、進路実現につなげる授業を実践する。

- ① 新学習指導要領に基づく授業作りについて、教科部会を中心に研修する。
- ② 生徒の実態に応じて教材を研究し、授業力向上を図り、生徒個々のレベルアップを図る。
- ③ 生徒が目的意識と見通しを持って意欲的に参加できる授業を実践する。
- ④ 生徒の向上を見逃さず、「認め、ほめ」適切にフィードバックして自信を高める。
- ⑤ 「学び合い」の授業を各教科でどのように進めているか、一人一公開授業・フォーカス授業を通して互いに見合い、視野を広げ、授業力向上を図る。
- ⑥ 特別活動や道徳の授業を通して話し合い活動の授業実践を重ね、「主体的・対話的・深い学び」の土壌を築く。
- ⑦ 「学び合い」に係る指導者を招聘し、授業研究会を通して授業力の向上を図る。

(2) 一人の生徒を全教師で育てる意識を高め、実践する。

- ① 日常の目配り（朝の会・帰りの会の活用、昇降口の確認、放課後や朝の教室確認）
- ② 報・連・相・確の徹底と、その後の変容について必ず再度報告・確認をする。
- ③ 一人で抱え込まず、悪いことほど早めに学年・管理職に知らせる。
- ④ 不登校解消のための組織的対応の強化（情報共有、方策立案、実施、改善）
- ⑤ 課題のある生徒への組織的対応の強化（学年・養護教諭・不登校対策相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等）
- ⑥ 外部他機関との連携強化（医療機関、児相、警察、保健所、教育センター等）
- ⑦ 生徒・保護者・教育相談アンケートによるいじめ問題の早期発見、早期解消  
\*アンケートは年4回以上実施（自宅で書かせ、封筒に入れて提出させる。）

(3) 学校をよくするため、生徒からの発信を適時行わせ、リーダーシップを高める。

- ① 教師の指導と見届けによりリーダーの努力を正當に評価し、達成感を味わわせる。
- ② 生徒会を中心に、「毛呂山中をこうしたい！」というビジョンを持たせ、実現に向けた方策を明確にして、実力をつけさせる。
- ③ 生徒朝会等を活用して、生徒から集団のルール作りの発信をする。

(4) 9年間を見通して、小学校と連携して指導内容を精選したり、地域人材を活用して「心の教育」の充実を図る。

- ① 令和7年度「特別活動」の研究成果を基盤に、他者理解（仲間の意見に耳を傾ける）ができる集団づくりを推進する。
- ② 道徳の授業実践（ローテーション道徳）とその評価に係る具体的な記述方法について研究する。

- ③人権教育と道徳教育を連携させ、毛呂山中学校スタイルを確立する。
- ④ 体験学習を充実させ、振り返りをする中で、心の成長を促す。
- (5) 真意が伝わる表現の仕方を工夫し生徒・保護者との信頼関係を確かなものとする。
  - ① 三つの『あ』 焦らず、侮らず、あきらめず
  - ② 人権意識の高揚（職員も生徒の規範となる言葉遣いを励行する。生徒の呼名を統一する。）
  - ③ 丁寧でわかりやすい説明（特に新入生の中1ギャップ未然防止）
  - ④ 保護者の願いを把握し（4月）、「保護者・生徒アンケート」の実施・検証・改善する。
  - ⑤ 社会に通用するように、マナーの習慣化・徹底した指導をする。
    - \* 正義が通る集団にするため、生徒指導の基本事項を常に確認し、繰り返し指導の定着を図る。
    - \* 「諦めない」。発達障がいの可能性のある生徒、不登校傾向にある生徒、生徒指導上課題のある生徒等、配慮すべきことを配慮し、声をかけ続け、根気負けしない。
    - \* 生徒の対処方法について、校内で協議したり、専門家から学び、教育相談活動との連携を図り、カウンセリングマインドに立った積極的な生徒指導に努める。
    - \* いじめ、非行問題の未然防止と早期発見・早期対応。即日対応と情報の共有化、行動連携。
- (6) 毛呂山小・泉野小と協働して、生徒の夢と希望を育む。
  - ① 学び合いの授業方法を小学校がどのように取り入れているか、不登校対策のカルテをとして、情報連携が図れるか、体験的な活動など、中学校で発展させることは何か等を協議し、具体的な実践に結びつける。
  - ② 「いのちの教育」9年間の年間計画の実践と検証をする。
- (7) コミュニティ・スクールの求める地域への貢献活動を推進する。
  - ① 学力向上や心の教育に、地域人材を活用する。
  - ② 地域の行事に、生徒・教職員が参加して、地域活性の一助となる。

## 6 お願いしたいこと

### ○【見・聞・認・護】の教育

見る…子供一人一人を、良く見る（見とり上手）

聞く…子供一人一人の声を良く聞く（聞き上手）

認める…子供一人一人の考え・行いを認め、良く褒める（褒め上手）

護る…子供一人一人を護る（無償の愛）

### ○【あ・い・う・え・お】の力の育成

「あ」（愛）家族愛・友人愛・郷土愛・あいさつ

「い」（命）命を大切にする。自分の命は自分で守る。いじめ防止。今を生きる。

「う」（運）良い運を引き寄せる。自分でつかみとる。努力は幸運をもたらす。

「え」（縁）様々な縁を大切にする。よりよい人間関係をつくる。

「お」（恩）感謝の気持ち、恩を忘れずに生活する。

○【目指す授業のあり方】

- 「明確」教えること学ぶことが明確な授業 ～「めあて」と「まとめ」を明示する～
- 「喜び」学ぶ楽しさのある授業 ～授業に驚きや感動を～
- 「認める」一人一人を大切にした授業 ～生徒の「わかった」「できた」を大切に～
- 「深める」学び合いを大切にした授業 ～主体的・対話的・深い学びを目指して～

○【目指す生活習慣】

- ・「時を守り（時間）、場を清め（清掃）、礼を正す（挨拶）」の実現
- ・「習慣は人格を育み、自尊感情を育てる」
- \*当たり前のことを当たり前に、徹底的にやる「凡事徹底」をさらに進化させ、必ず習慣になるまで徹底させる。情熱を傾けやり切り「凡事一流」にする。

7 目標・達成基準等

【学校評価にて】

保護者アンケート

- ・「学校は、小中一貫教育やコミュニティ・スクールについて知らせ、教育活動の工夫に努めている。」について、肯定的な意見85%以上（昨年度83.3%）

生徒アンケート

- ・「私は、予習・復習は、欠かさずに行っている。」について、肯定的な意見50%以上。（昨年度46.9%）
- ・「毛呂山中学校には、いじめや差別はない。」について、肯定的な意見90%以上。（昨年度80.3）

【年度末調査にて】

- ・各種検定（英語、数学、漢字など）に挑戦する生徒の割合を50%以上。（昨年度30.4%）

(参考) 令和7年度毛呂山中学校保護者 学校評価に関するアンケート質問項目について

次の項目で【A：そう思う B：ややそう思う C：どちらかというと思わない D：思わない】のうち最も近いと思われるものを選んで○印を記入してください。

評価できない項目はEとして下さい。↓

NO	評価項目	A	B	C	D	E
1	学校は、学校教育目標（自ら学び・共感し・行動できる生徒）を保護者や地域の願いを受け設定し、教育活動に反映させている。					
2	学校は、保護者会・学校便り・学年通信・学級通信・ホームページなどを通じ情報を適切に提供している。					
3	学校は、保護者と協力し環境や施設の充実に努め、安心安全な学校づくりに取り組んでいる。					
4	学校は、授業の規律を大切にし、わかりやすい授業に努め、主体的に取り組む意欲と基礎学力の定着を図っている。					
5	学校は、生徒の望ましい伸長をめざした学校行事となるよう配慮している。					
6	学校は、生徒の健康や体力向上に努めている。					
7	学校は、生徒一人一人の生徒理解に努め、悩みや不安を教育相談等を通して、適切に対応している。					
8	学校は、命の学習などを通し、生命の大切さや人権を尊重する心や態度を育てようとしている。					
9	学校は、社会のルールやマナーを身につけさせる取組をしている。					
10	学校は、学校公開や保護者会など保護者や地域の声を聞く機会を適切に設けている。					
11	学校は、小中一貫教育やコミュニティ・スクールについて知らせ、教育活動の工夫に努めている。					

(参考) 令和7年度 生徒アンケート ～今年の毛呂山中学校の生活を考えよう～

年 組 番 氏名

今年度のこれまでのあなたの学校生活を振り返って、以下の質問に答えてください。

答える際には、A・B・C・Dの表のいずれかに○印を書き込んでください。

A：そう思う B：ややそう思う C：どちらかというと思わない D：思わない

	評価の内容	A	B	C	D
1	私は、学校生活が楽しいと思う。				
2	私は、予習・復習は、欠かさずに行っている。				
3	私は、宿題を忘れることなくしっかりと行っている。				
4	私は、まじめに授業に取り組んでいる。				
5	私は、学校行事に熱心に取り組んでいる。				
6	私は、部活動に熱心に取り組んでいる。(未加入は空欄)				
7	私は、進んであいさつをしている。				
8	私は、正しい言葉づかいで話をしている。				
9	あなたは、学校の決まりを積極的に守っている。				
10	私は、掃除に一生懸命取り組んでいる。				
11	私は、交通ルールや公共マナーを守って生活している。				
12	私は、地域の活動に積極的に参加している。 (ボランティア・ジュニアリーダー等)				
13	私は、小学校(小学生)との交流を積極的に行っている。 (一斉下校・部活動交流・合唱交流・挨拶運動・兄弟学年交流等)				
14	毛呂山中学校には、いじめや差別はない。				
15	毛呂山中学校は、生徒が中心となって行事を運営する学校である。				
16	先生方は、熱心にわかりやすい授業を行っている。				
17	先生方は、生徒一人ひとりをよく理解し公平に接してくれる。				
18	先生方は、礼儀正しく、親切で親しみが持てる。				
19	先生方は、生徒の間違った行動に対してきちんと指導してくれる。				
20	先生方は、生徒の話をよく聞いてくれる。				